

氏名	関口 昭如			
学位の種類	博士(工学)			
学位記番号	博甲第7692号			
学位授与年月日	平成28年3月25日			
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当			
審査研究科	システム情報工学研究科			
学位論文題目	Study on Web Analytics in B to B Manufacturer Industry (B to B 製造業界におけるウェブアクセス解析に関する研究)			
主査	筑波大学 教授	博士(工学)	津田 和彦	
副査	筑波大学 教授	博士(工学)	吉田 健一	
副査	筑波大学 准教授	博士(システムズ・マネジメント)	倉橋 節也	
副査	筑波大学 教授	博士(工学)	遠藤 靖典	
副査	東海大学 准教授	博士(情報理工学)	飯塚 泰樹	

論文の要旨

インターネットの発達により、Business to Customer(以下BtoC)においては、ウェブを用いた広告宣伝や販売、マーケティングなどの商業活動が一般的になっている。けれども、Business to Business(以下BtoB)においては、いまだに担当セールスマンが顧客となる企業を訪問する形態での商業活動が一般的である。このような背景の中、BtoBにおいても、ウェブを用いた商業活動を活発にすることが望まれている。

本論文は、商品提供企業のウェブページを訪れたビジネスユーザの振る舞いを、ページ遷移、滞在時間など多視点で分析することで、BtoCとBtoBではその振る舞いが異なることを明らかにすると共に、BtoBの商業活動においてはユーザ登録をさせることが重要な要因になることを導いている。さらには、ユーザ登録手続きに関してユーザの振る舞いを分析し、その結果より、効果的なユーザ登録手続きを提案すると共に、その効果を実際のウェブページ上で実験を行う事で、有効性を証明している。

本論文は、6章で構成されている。第1章では、本論文で取り上げる研究の背景と目的を述べ、本研究の位置付けを示している。

第2章では、ウェブを用いた商業活動に関する先行研究をサーベイし、BtoBの商業活動に関する先行研究が、僅かしか存在しないことを確認している。その上で、BtoBウェブ解析において考慮しなければならない特性を明らかにしている。

第3章では、BtoBウェブページを訪れたビジネスユーザの振る舞いをページ遷移、滞在時間など多視点で分析することで、ビジネスユーザの特性を明らかにすると共に、BtoBウェブ解析のフレームワーク・モデルを提案している。

第4章では、ウェブページを訪れたビジネスユーザの訪問時刻や接続元の情報を分析した結果、ビジネスユーザには多くのタイプが存在するため、ユーザ環境によるセグメントが必要なことを明らかにしている。

第5章では、BtoBの商業活動においてはユーザ登録をさせることが重要な要因になることを導くと共に、実際にユーザ登録手続きの改良を行い、実際のウェブページ上で実験を行う事で、その効果を確認している。

最後に第6章では、結論として本研究の成果をまとめると共に、今後の取り組みについて述べている。

審 査 の 要 旨

【批評】

工業製品の多品種少量生産が進む中、BtoBにおいても個別取引における取引個数は減少すると共に、取引単価も下落の一途をたどっており、セールスマンによる商業活動の効率は下落傾向にある。このような背景の中、BtoBにおいても、ウェブを用いた商業活動を活発にすることが望まれている。本研究は、この課題を解決することを目的としており、社会のニーズに合致したテーマと言える。

本研究では、先行研究をサーベイすることでBtoBを対象としたウェブによる商業活動に関する研究が少ないことを確認している。それゆえ、BtoBにおける販売側のニーズを精査すると共に、BtoBウェブページを訪れたビジネスユーザの振る舞いを多視点で分析することでビジネスユーザの特性を明らかにして、BtoBウェブにおける商業活動のニーズとシーズを考慮したBtoBウェブ解析のフレームワーク・モデルを提案している。

さらには、ウェブページを訪れたビジネスユーザの訪問時刻や接続元の情報など、ユーザ環境から、ユーザのセグメントが必要なことを明らかにしている。その上で、BtoBの商業活動においてはユーザ登録をさせることが重要な要因になることを導き、効果的なユーザ登録手続きを提案すると共に、実際のウェブページ上で実験を行う事で、その有効性を確認している。

以上、本学位論文は著者の実務家としての問題意識に裏付けされたものであり、研究の内容は、博士（工学）を授与するに十分なものと判断する。

【最終試験の結果】

平成28年1月28日、システム情報工学研究科において、学位論文審査委員の全員出席のもと、著者に論文について説明を求め、関連事項につき質疑応答を行った。この結果とリスク工学専攻における達成度評価による結果に基づき、学位論文審査委員全員によって、合格と判定された。

【結論】

上記の学位論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士（工学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。